

2 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	「クラム県の対象8校で、継続的な学習を阻害する要因を軽減することで、生徒が安心して学校で教育を受けられる環境が構築され、衛生教育及び適切な学校施設使用や心のケアに対する理解も深まり、教育へのアクセスが向上される」という目標は達成できた。事業の途中で、2度期間延長を行ったものの、それぞれの活動を事業終了までに完了できた。結果、対象8校の生徒の就学数が、例年より35%程増加する見込みである。
(2) 活動内容	コンポーネント1: 学習環境の改善 (学校・衛生施設整備) 1-1 <u>事業関係者に対するオリエンテーション</u> 本事業実施に当たり、クラム県出身のスタッフが、県教育局、学校、両親教師委員会 (Parents Teachers Committee: 以下、PTC) に対する事業の目的と内容の説明を行った。その場でそれぞれの役割を確認し、協力を要請して合意を得た。 1-2 <u>トイレの浄化槽の設置をする学校の水質検査</u> トイレの浄化槽の水質検査を、公衆衛生局立ち合いの元、パキスタン水資源調査委員会が (Pakistan Council of Research in Water Resources: PCRWR) 現場で行った。クラム県出身のスタッフが、各対象校の水源から採取した水のサンプルを PCRWR に手渡し、PCRWR が水の分析を行った。 結果、対象8校の内、4校に生物学的汚染 (細菌) を発見した。公衆衛生局と協議を重ねた結果、学校と公衆衛生局の連携を促し、衛生教育研修時に、PTC に水のろ過など、基本的な水質を保つ方法を伝えて、対応した。 1-3 <u>現存施設の修復と新規建設</u> 次の施設 (境界壁、正門、教室、トイレ、下水溝、電気工事、旗用柱、ホワイトボード、ゴミ箱) の修復もしくは新規建設・設置とそれに伴う整地作業等を行った。工事内容は、当初の計画通り、対象校のニーズに沿って異なっている。 計画通り、気象状況 (雪や雨など) や作業工程を鑑みながら、請負業者と密に調整を行い、建設現場での人員をモニタリングした。一方で、2度の事業期間の延長申請を行い、当初の請負業者数を2社から3社に増加など様々な策を講じて、建設の進捗速度を上げた。 対象8校の建設・整備を終えて、計画通り、クラム県教育局に正式に引き渡しを行った。 教育局エンジニアより全ての施設は安全かつ快適な学習環境として適しており、建設された施設に技術的な問題が全くなかったことを評価された。また、クラム県の学校施設の模範となると称賛された。 1-4 <u>学校備品の提供</u> 学校が冬季休暇になる12月下旬から翌年2月末までに、生徒用の椅子及び机、教師用の椅子及び机、学習教材等を収納するための棚の調達を行った。翌年3月から配布を開始し、6月中旬までに提供した。 1-5 <u>PTC および教師に対する施設維持管理研修</u>

	8 校の PTC56 名 (7 名×8 校) と教師 29 名を対象に、教育局の専門家による 1 日間の施設維持管理研修を、当初は 1 回ずつ 3 箇所に分けて行う予定だった。 しかし、対象県上部地域での、森林の所有権をめぐる宗派間の衝突に伴い、県当局と協議の上、活動を前進させるためにも、全ての対象となる教師と保護者を平和的な環境で、別々に以下の通り、全 4 箇所で訓練することとした。 ● 上部クラム地域：14 人+ 14 人= PTC28 人 (2 箇所) ● 下部クラム地域：14 人+14 人= PTC28 人 (2 箇所) 事業の終わりに 2 日間のフォローアップ研修を同 PTC 及び教師を対象に 1 回実施し、実践度合を確認し、知識を更に強化の上、研修実施後に新たに出てきた疑問や課題に対応した。 この他、実施における調整や事業のモニタリングの際に、当団体のスタッフが何かしらの問題を発見した場合には、PTC と教師に維持・管理、施設の使用方法的説明を再度行い、適切に対応されることを確認した。 コンポーネント 2: 衛生教育、心のケア及び施設使用に関する意識教育 2-1 <u>生徒に対する事前 KAP 調査 (テスト)</u> 対象生徒 (10 人/校 x8 校=80 人) に対して上記 (3 つの内容：衛生教育、心のケア及び施設使用に関する意識教育) 実施前の知識・態度・行動の変化を測定した。 2-2 <u>学校と生徒を対象とした衛生キットの供与</u> 衛生教育の内容を具体的に理解し、より高い効果につなげるために、計画通り、以下の石鹸等の練習用衛生キットを 1 セットずつ、各学校・生徒に配布した。 生徒用衛生キットの中身：石鹸、爪切り、歯ブラシ、歯磨き粉、石鹸容器、タオル、櫛、衛生キットバック。 学校用衛生キットの中身：先生用の飲料水容器、学校の生徒用飲料水容器、学校の生徒および教師用のスチールコップ、各トイレ用プラスチックの水容器、及び石鹸。 なお、衛生教育時に使用する石鹸等の練習用衛生キットは、当初の予定通り、各学校の PTC が供与した。 2-3 <u>PTC および教師に対する衛生教育、心のケアの研修</u> 計画通り、衛生促進専門家が、衛生教育の研修を行い、心のケアの研修は当団体職員が実施した。上記 1-5 施設維持管理研修と一緒に開催され、合計 3 日間の研修プログラムとした。 2-4 <u>生徒に対する衛生教育、心のケア及び学校施設使用に関する意識教育の実施</u> 対象校の全 68 クラス (合計生徒 3,102 人) を対象に、上述した研修 2-3 を受けた各学校の教師が主体となって、まずは教育オフィサーが全ての研修 (衛生教育、心のケア及び学校施設使用) について、県当局及び学校やコミュニティとの調整を行った。加えて、各学校の教師と共に教材を準備し、最初に生徒への衛生教育を行った。研修の当日には、毎回専門的な知識を持つトレーナー (心理カウンセリング、衛生啓発、施設使用) がアドバイスや指導など補足説明を行った。 学校の冬期休暇 (12 月下旬から翌年 2 月末) に伴い、未実施の衛生教育や心のケア及び学校施設使用に関する意識教育は、12 月下旬に一時的に終了し、2022 年 3 月上旬から再開した。
--	---

	なお、心理のケアの専門トレーナーは、予定通り専門性を持った当団体職員（フィールドコーディネーター）が、兼任した。一方で、当初衛生啓発専門トレーナーや備品管理専門トレーナーが、それぞれ1人で68セッションを担当する予定だったが、追加で2名（衛生教育のトレーナー1名及び施設管理のトレーナー1名）を雇用し、半分の34セッションを2人が同時進行で対応し、スピードアップを図った。 また、当初、男性1名、女性1名を雇用する予定だった教育オフィサーについては、教育局と協議の上、女性職員2名を最終的に採用した。 2-5 <u>生徒に対する事後 KAP 調査（テスト）</u> 計画通り、事前 KAP 調査対象の生徒（10 人/校 x8 校=80 人）に対して衛生教育、心のケア及び施設の使用の意識教育研修後の知識・態度・行動の変化を測定した。研修前後に実施した理解度テストの結果では、理解度の大幅な改善が確認できた。 2-6 <u>PTC に対する事前・事後 KAP 調査（テスト）</u> 計画通り、事前 KAP 調査対象の PTC（2 人/校 x8 校=16 人）に対して衛生教育、心のケア及び施設維持管理研修後の知識・態度・行動の変化を測定した。研修前後に実施した理解度テストの結果では、理解度の大幅な改善が確認できた。 なお、2021 年 10 月初旬から中旬にかけて、イスラマバードに本部スタッフとして駐在する事業責任者（パキスタン人：サイエド・アズマツト・アリ・シャー）を日本に招へいた。事業の進捗管理と成果や実績の報告を、本部事業担当、事務局長、理事、外務省事業関係者と対面で行った。また、複数の本部の事業関係者が、現場の声を直接聞く機会を設ける事で、事業の状況に関する理解をさらに深めた。 また、この報告書や評価の内容について、対象校の生徒や PTC だけでなく、県当局、通信・労働局¹、県及び州教育局、一時避難民事務局（TDP）、KP 州計画開発局（PD）に報告した。
（3）達成された成果	<u>コンポーネント 1：学習環境の改善（学校・衛生施設整備）</u> 成果 1：子どもたちが学校に行くことができる。 指標 1：前年度からプロジェクトの終了までに、対象校における生徒の就学率（就学年齢にある公立学校の子どもの総数の内、実際に公立学校に在籍している生徒数）が 35%増加する。 ⇒学校の開始が、2023 年 4 月になるため、対象校の PTC に聞き取り調査を行った。結果、対象校における生徒の就学率が、35%増加する見込み。女子生徒の就学人数も前年度から増加する。本成果は、SDGs の 4「質の高い教育をみんなに」、5「ジェンダー平等を実現しよう」に資する内容である。 成果 2：対象 8 校の学校施設が整備される 指標 2：施設整備の数（8 校） ⇒下表のとおり、施設が整備された。本成果は、SDGs の 4「質の高い教育をみんなに」、また、建設事業により地域の雇用が促進されたことから、8「働きがいも経済成長も」に資する内容である。

¹ 同県で政府の建物基準の作成など取り扱っているため、当局とコンポーネント 1 の活動で調整が必要になった。

番号	学校名	建設/修復	境界壁	正門	教室	トイレ (個室2 箇所)	トイレ (個室4 箇所)	浄化槽	下水溝	整地 作業	旗用 柱	ホワイト ボード	ゴミ箱	電気 工事	橋梁型 排水溝 (カル パート)
1	GPS LEWAN KHEI, UPPER	新規建設	1	1	-	1	-	1	1	1	1	1	1	1	-
	KURRAM	修復	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
2	GGPS BOGHDAY, UPPER	新規建設	-	-	2	-	-	-	1	1	1	-	1	2	-
	KURRAM	修復	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	GGPS ALI SHARAI, UPPER KURRAM	新規建設	-	-	1	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1
	UPPER KURRAM	修復	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
4	GGPS COLLEGE COLONY, UPPER	新規建設	-	-	2	-	1	1	1	1	1	-	1	3	-
	KURRAM	修復	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	GGPS SHASHO, LOWER	新規建設	-	-	2	1	-	1	1	1	1	1	1	3	-
	KURRAM	修復	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	GGMS SADDI, LOWER KURRAM	新規建設	1	1	6	-	1	1	1	1	1	-	1	7	-
	LOWER KURRAM	修復	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	GGPS WARSAK, LOWER KURRAM	新規建設	1	-	2	1	-	1	1	1	1	1	1	3	-
	LOWER KURRAM	修復	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	GGPS MANDURI, LOWER KURRAM	新規建設	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	LOWER KURRAM	修復	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	1	4	-
計		新規建設	3	2	15	3	2	5	7	7	8	4	7	20	1
		修復	3	0	8	0	0	0	1	0	0	0	1	8	0

GPS: government primary school 政府小学校 (男子校)

GGPS: government girls' primary school 政府女子小学校

GGMS: government girls' middle school 政府女子中学校

コンポーネント2: 衛生教育、心のケア及び施設使用に関する意識教育

成果1: 対象生徒の衛生に関する知識が教育終了後に向上している。

指標1: 対象生徒の衛生教育理解度テスト (KAP 調査) の点数が、衛生教育前後で最大で 40 点上がる。

⇒調査対象となった 80 人の理解度テスト全体の平均が 100 点満点中 19.80 点だったのに対し、研修後は 80.20 点となり、大幅に向上した。衛生教育前後で最大で 60.4 点上がった。本成果は、SDGs の 4「質の高い教育をみんなに」、SDGs の 6「安全な水とトイレを世界中に」に資する内容である。

成果2: 対象生徒の心のケアに関する知識が研修終了後に向上している。

指標2: 対象生徒の心のケアの理解度テスト (KAP 調査) の点数が、意識教育前後で最大 40 点上がる。

⇒調査対象となった 80 人の理解度テスト全体の平均が 100 点満点中 27.40 点だったのに対し、研修後は 81.10 点となり、大幅に向上した。意識教育前後で最大で 53.70 点上がった。本成果は、SDGs の 4「質の高い教育をみんなに」に資する内容である。

成果3: 対象生徒の適切な学校施設の使用に関する知識が研修終了後に向上している。

指標3: 対象生徒の施設の使用に関する理解度テスト (KAP 調査) の点数が学校施設の使用に関する意識教育前後で最大 40 点上がる。

⇒調査対象となった 80 人の理解度テスト全体の平均が 100 点満点中 22.70 点だったのに対し、研修後は 77.30 点となり、大幅に向上した。研修前後で最大で 54.60 点上がった。本成果は、SDGs の 4「質の高い教育をみんなに」に資する内容である。

成果4: 対象 PTC の衛生に関する知識が研修終了後に向上している。

指標4: 対象 PTC の衛生教育理解度テスト (KAP 調査) の点数が、衛生教育の研修前後で最大で 40 点上がる

	⇒研修前の対象 PTC16 人の理解度テスト全体の平均が 100 点満点中 29.66 点だったのに対し、研修後は 70.34 点となり、大幅に向上した。衛生教育前後で最大で 40.68 点上がった。<u>本成果は、SDGs の 4「質の高い教育をみんなに」、SDGs の 6「安全な水とトイレを世界中に」に資する内容である。</u> 成果 5：対象 PTC の心のケアに関する知識が研修終了後に向上している。 指標 5：対象 PTC の心のケアの理解度テスト（KAP 調査）の点数が、意識教育前後で最大 40 点上がる。 ⇒研修前の対象 PTC16 人の理解度テスト全体の平均が 100 点満点中 29.97 点だったのに対し、研修後は 70.06 点となり、大幅に向上した。意識教育前後で最大で 40.09 点上がった。<u>本成果は、SDGs の 4「質の高い教育をみんなに」に資する内容である。</u> 成果 6：対象 PTC の施設維持管理に関する知識が研修終了後に向上している。 指標 6：対象 PTC の施設維持管理に関する理解度テスト（KAP 調査）の点数が施設維持管理に関する研修前後で最大 40 点上がる。 ⇒研修前の対象 PTC16 人の理解度テスト全体の平均が 100 点満点中 29.94 点だったのに対し、研修後は 70.06 点となり、大幅に向上した。研修前後で最大で 40.12 点上がった。<u>本成果は、SDGs の 4「質の高い教育をみんなに」に資する内容である。</u>
(4) 持続発展性	本事業終了後、持続可能性の主な担い手は PTC となる。PTC により、整備された学校施設が、継続的に管理・運営され、衛生教育や心のケアの意識教育が継続されるよう、学校と教育局との関係構築および体制づくりを支援した。 【教育局への学校施設引き渡し後、PTC による施設維持管理】 学校施設の整備・建設後はクラム県教育局に正式に引き渡しを行った。教育局の監督の下、PTC が学校施設の維持管理を担う。PTC は事業期間中、今後の施設維持管理をより効率的かつ効果的なものにするために、自らの活動の見直しを継続的に行っている。 PTC の主な役割は以下の通り。 ① 学校改善計画策定、予算編成と資源の動員 ② モニタリングと評価 ③ 記録管理 ④ 教育関連関係者との対話 ⑤ 子どもの保護と健康管理 ⑥ 災害管理 PTC は県教育局に施設の管理状況を報告し、教育局がその報告書を確認する。教育局の担当官が定期的に、学校をモニタリングする。 PTC は、事業後の学校での活動の進捗や次年度計画及び施設管理の重要性についても教育局と協議を行う。 なお、施設管理に必要な資金管理（教育局への補助金申請や地域の関係者からの集金方法）については、PTC は教育局から講義を既に受けているため、PTC は円滑に教育局から直接資金を受けとり施設を適切に維持できると期待できる。 【PTC による生徒への衛生教育と心のケア及び適切な施設使用の意識教育の継続実施】 ● 事業後 PTC が生徒の衛生状況や衛生施設の点検等を行い、生徒たちの正しい衛生習慣と安全な環境の確保、心理的不調に目を向け、必

	要に応じて問題解決に向けて対応する。 ● PTC は今後、学校施設の維持管理だけでなく、生徒たちの衛生教育や心のケア、適切な学校施設の使用の重要性を再確認する役割を持つ。 ● 教師は、生徒への衛生教育と心のケア、施設使用の意識教育を、必要に応じて通常の授業の中に組み入れて継続的に実施する。 ● また、卒業時に生徒が入れ替わると、関与する PTC のメンバーも入れ替わる。その対策として、教師が先行の PTC メンバーに新しい PTC メンバーの紹介を行った上で、代わりの PTC メンバーを訓練する。
--	--